

がん検診の内容

胃がん検診

胃のレントゲン撮影(胃のバリウム検査)をします。がん・潰瘍・ポリープ・胃炎などの変化が分かります。

腹部超音波検査

超音波で、肝臓、胆のう、胆管、すい臓、脾臓、腎臓、腹部大動脈など見ます。胆のう結石・胆のうポリープ・のう胞・腎結石・肝腫瘍・脂肪肝などたくさんの変化が見つかりますが、心配のいらぬものもあります。

乳がん検診

マンモグラフィは、乳房を2枚の板で挟んでX線をとる検査です。触診では見つからないような小さながんが見つかることがあります。超音波検査は、しこりががんであるかどうかや、病変の広がりを診断するのに有用です。がん検診の指針ではマンモグラフィは2年に一度でよいといわれています。30歳代は乳腺密度が高く、マンモグラフィの有効性が期待できないため乳房超音波検診をお勧めします。

がん複合検診ではマンモグラフィと乳房超音波、施設検診では乳房超音波と視触診があります。



がんは、自覚症状が出にくく、また症状があっても見逃すことがあります。日常生活の中で注意していくとともに、早期発見のために年に1回、この機会にぜひ検診を受けてみましょう。

大腸がん検診

検査は便を2日間採取して、血液中のヘモグロビンに反応する試薬を使って行ないます。出血が認められなければ陰性、陽性なら上部・下部消化管のいずれかで出血をとまぬ病気の可能性があります。

大腸ファイバー検診

S状結腸までカメラで検査します。出血の少ないポリープや早期がんの発見に効果を発揮します。

子宮がん検診

子宮頸部(子宮の入り口)を調べます。内診・細胞診(綿棒でこすりにとって異型細胞がないかを調べます)をします。頸管ポリープ(良性のイボがほとんど)や炎症などが見つかります。

骨粗しょう症検診

前腕部をエックス線で測定します。骨の密度を調べます。

●母子健康手帳の交付

保健師が、妊婦さんの体調などを聞きながら母子健康手帳の使い方や妊婦健康診査について説明を行ないます。交付場所は＜西合志庁舎＞健康づくり推進課です。また、健康育児相談時も交付しています。2月10日(水)・3月10日(水)泉ヶ丘市民センター、2月16日(火)ふれあい館です。日程は健康づくり事業計画表に掲載していますのでご参照の上お越しください。印かんと産婦人科から妊娠届出書をもらい、持参ください。

●熊本県小児救急電話相談事業

相談時間
毎日・夜間
午後7時～午前0時
☎#8000
(ただし、ダイヤル回線・IP電話・光電話からは☎364-9999)



平成22年度がん検診の申込み票を郵送しています

受診希望者は希望する検診に○をつければ、**3月1日(月)までに**各庁舎・各支所に提出してください。

※検診の2～3週間前に問診票を郵送します。
※大腸ファイバー検診は6月、がん複合検診は9～10月、子宮がん・乳がん施設検診は12～2月実施予定です。
※大腸ファイバー検診は、事前に説明会を実施し、予約券を配付します。



「がん検診申込み票」が届いていない人(転入者など)は、健康づくり推進課にご連絡ください。(以前、がん検診申込み票を「不要」とされた世帯には郵送していません。)

がん複合検診(集団)	対象年齢	個人負担金(予定)		検診日	検診会場
		69歳以下	70歳以上		
胃がん検診	30歳から	1,300円	500円	9～10月 受診日時は混雑を避けるため、調整させていただきます。	野々島公民館 御代志市民センター 須屋市民センター ふれあい館 泉ヶ丘市民センター 合志庁舎 みどり館
大腸便潜血検査	30歳から	500円	200円		
腹部超音波検診	30歳から	1,000円	1,000円		
骨粗しょう症検診	40歳から	1,000円	300円		
マンモグラフィ・乳房超音波検診	40歳から	1,700円	600円		
乳房超音波検診	30歳から	1,000円	300円		
子宮がん検診	30歳から	1,100円	400円	甲状腺超音波検診のみはできません。乳房検診とセットになります。	
オプション	甲状腺超音波検診	30歳から	1,000円		

単独がん検診	対象年齢	個人負担金(予定)		検診日	備考
		69歳以下	70歳以上		
大腸ファイバー検診(S状結腸)	30歳から	2,000円		6月	検診車で実施 ※事前説明会で予約券を配付
大腸便潜血検査		500円	200円		
子宮がん施設検診	20歳から	1,600円	600円	12～2月	市内委託医療機関
乳がん施設検診(視触診・乳房超音波併用)	30歳から	1,500円	500円		

新型インフルエンザワクチン予防接種費用助成 ～接種費用の助成を拡大します～

新型インフルエンザワクチン予防接種は、重症化防止の有効な手段として、幼児や高齢者・基礎疾患のある人に実施されていましたが、1月下旬から1歳未満の乳児および健康成人(19歳から64歳までの基礎疾患のない人)への接種が始まりました。市では、優先接種者と同様に費用助成を行ないます。

◆受ける前に知っておきたいこと

新型インフルエンザワクチン接種の意義

今回の新型インフルエンザワクチンは、これまでのデータから、重症化や死亡の防止に一定の効果が期待

されます。ただし、感染防止の効果は証明されておらず、接種したからといって、かからないわけではありません。

新型インフルエンザワクチンの有効性・安全性

国内産のワクチンの安全性は、長年接種されてきた季節性インフルエンザワクチンと同程度と考えられ、有効性もある程度期待されます。輸入ワクチンに関しては、海外で承認されていることを前提として、さまざまなデータをもとに国が有効性・安全性を確認してから実際の接種を始めます。

新型インフルエンザワクチンの予防接種は任意の接種です

ワクチン接種にあたっては効果とリスクを考慮してください

ワクチン接種は多くの人たちに重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後に腫れたり、熱が出たりするなどの症状が見られ、まれに重篤な症状を引き起こす可能性もあります。リスクを100%は排除できないのです。この点をご理解いただいたうえで、個人の選択で接種を受けるようお願いいたします。

接種方法や費用助成などは優先接種者と同様です。広報こうし平成21年11月号・12月号をご参照ください。なお、不明な点がありましたら、**予約前にお問い合わせください。**